

# 治水

発行 全国治水期成同盟会連合会

東京都千代田区平河町 2-7-5(砂防会館内)  
電 話 03(3222)6663 FAX 03(3222)6664  
ホームページ <http://zensuiren.org/>  
お問い合わせ [zensuiren@k2.dion.ne.jp](mailto:zensuiren@k2.dion.ne.jp)  
編集・発行 植崎晃久



## ● 目 次

安全で安心できるくらしの実現と豊かであるおいのある水辺の再生 .....	2
第 65 回利根川治水同盟治水大会の開催 .....	4

# 安全で安心できるくらしの実現と 豊かでうるおいのある水辺の再生

“Ensure people’s safety and security  
and revive attractive waterfront”



国土交通省水管理・  
国土保全局長  
池内 幸司

7月8日付で水管理・国土保全局長を拝命しました池内幸司です。約1年ぶりの本省勤務となりますが、どうぞよろしくお願い申し上げます。

昨年は、台風18号により、四国から北海道の広い範囲で水害が発生するとともに、伊豆大島でも甚大な土砂災害が発生するなど水害・土砂災害が多発しました。今年も、8月19日からの大雨により広島市で発生した土砂災害をはじめとして、台風8号、11号、12号、前線豪雨等により、各地で水害・土砂災害が発生しています。お亡くなりになられた方々のご冥福をお祈り申し上げるとともに、被害に遭われた方々に心からお見舞いを申し上げます。災害による被害を防止・軽減する取組の重要性を改めて認識しております。

さて、就任にあたり、私の考える5つの重点分野を申し上げたいと思います。

1点目は防災・減災対策の充実・強化です。昨年8月に私が近畿地方整備局長に就任した直後には、台風18号に伴う大雨により、近畿地方北部を中心に大きな被害が発生いたしました。京都府の桂川では、観測史上最高の水位を記録し、越水による堤防決壊の危機にさらされましたが、淀川上流ダム群で最大限の洪水調節を行うとともに、懸命の水防活動により、堤防決壊という最悪の事態を回避することができました。淀川上流ダム群の建設費用は約4千億円ですが、その約3倍に当たる1兆数千億円の洪水調節効果を発揮することができました。改めて、ハードソフト両面の治水対策を着実に進めることの重要性を身にしみて感じた次第です。

今年度は全国の直轄河川において、「タイムライン」に基づく対応を試行しております。7月の台風8号が

タイムラインを適用した初めてのケースとなりましたが、タイムラインに基づく行動により速やかな避難勧告等の的確な防災対応につながった事例が数多くありました。今回の洪水対応の経験を踏まえてタイムラインの内容をより一層充実するとともに、タイムラインの作成対象箇所を増やしていきたいと考えております。

首都直下地震と南海トラフ巨大地震に対しては、今年の4月に、災害が発生した際の応急活動計画や、災害の発生に備えて戦略的に推進すべき対策等をとりまとめた国土交通省の対策計画が策定されました。そして、7月17日に開催した対策本部において、重点対策等の実施状況について対策計画のフォローアップを行うとともに、道路啓開計画の策定や緊急地震速報・津波警報等の迅速化・高精度化、電子防災情報システムの導入など、今後重点的に取り組む対策を決定しました。省の総力をあげて、巨大地震に対する事前の備えを着実に推進するとともに、対策計画を継続的に改善してまいります。

また、大規模な災害の発生に対し派遣しているTEC-FORCE(緊急災害対策派遣隊)についても、より迅速かつ的確な支援活動が行われるよう、さらに具体的な活動計画の策定や実践的な訓練の実施などを通じ、活動体制の充実強化を図ってまいります。

2点目は、地球温暖化に伴う気候変動への適応策の推進です。昨年末に気候変動に適応した治水対策のあり方について社会資本整備審議会に諮問し、現在、小委員会において議論をいただいているところです。これまでに重ねられてきた議論も踏まえ、具体の施策の中に、気候変動の適応策を取り込んでい

くことが重要です。気候変動に伴う安全度の低下や計画規模を上回る洪水や高潮等の発生頻度の増大を考慮し、治水対策の計画、設計、管理、危機管理といった各段階における対策と河川整備とまちづくりという2つの側面における具体策を構築していく必要があると考えています。

3点目は、戦略的維持管理・更新です。昨年11月に政府としてインフラ長寿命化基本計画を策定し、国土交通省では5月にインフラ長寿命化計画(行動計画)を策定しました。また、昨年度の河川法の改正に続き、今年度は海岸法が改正され、海岸保全施設の管理者の適切な維持・修繕の義務が明確化されたところです。これらの動きも踏まえ、直轄施設の維持管理・更新を的確に行うとともに、地方公共団体等が管理する施設が適切に維持管理されるよう、必要な支援を行ってまいります。また、施設の更新時に、単に同じものにするのではなく、必要な場合には質的なレベルアップを図っていくことも重要であると考えています。例えば、都市内の護岸を更新する際に、親水性や景観、自然環境にも配慮していければと思っています。

4点目は、水辺の賑わいを取り戻し、良好な水辺空間を再生することです。前職で、30数年ぶりに大阪で生活して驚いたことは、水辺の様子が様変わりしていたことです。以前の大阪においては、ゴミが浮き、夏場は近寄ると悪臭で気持ちが悪くなるような川も少なくありませんでした。したがって、川側は、ビルに背を向けられ、空調の機械がずらりとならんでおり、とても川の周辺を散策する気にはなれませんでした。それが、地域の関係機関や企業、住民の方々のご努力により、水もきれいになり、川沿いに遊歩道ができ、おしゃれなレストランやワインバーなどが水辺にあり、

若者たちで賑わっています。まち自体も、水辺が再生したことにより、新たな水都大阪として大変魅力的なまちに変化しました。このように、水辺の賑わいはまち全体の賑わいにもつながります。このような動きを、オリンピック・パラリンピックの開催を2020年に控えた東京をはじめ、全国に広げたいと思います。「水辺とまちのソーシャルデザイン懇談会」の提言を受けて、現在、水辺への関心を高めるための「ミズベリング・プロジェクト」を市民、企業、行政が三位一体となって展開しているところです。引き続き、関係機関や民間の方々の方々の工夫や活力を取り込むことで水辺を再生する取組を進めてまいります。

5点目は新技術の導入です。新技術の研究・開発だけでなく、既に開発され、他分野で活用されているような技術を社会資本の整備・管理や防災対応などに積極的に導入していくことが重要であると考えています。また、特に下水道の分野においては、汚泥のバイオマスを活用することにより、電力やバイオガスを供給するとともに、世界的に偏在していて戦略物資化しているリンの供給源としての期待も高まっています。このような動きに対する支援策等を積極的に実施してまいります。

先般、国土交通大臣のイニシアティブのもと、2050年を視野においた今後の国づくりの理念や全国の各地域や都市のあり方として「国土のグランドデザイン2050」がとりまとめられました。このような長期的な視点も踏まえ、以上述べました5つの重点分野を中心に、国民の安全・安心を確保し、地域の賑わいを取り戻す取組等を進めていく所存です。皆様の引き続きのご支援とご協力を心からお願い申し上げます。

# 第 65 回利根川治水同盟治水大会の開催

第 65 回利根川治水同盟治水大会は、野本陽一利根川治水同盟副会長（埼玉県議会議員）のご出席のもと、国土交通省や国会議員・都県議会議員など多数の来賓のご臨席をいただき、利根川水系の都県の多くの関係者が参加して、盛大に開催されました。

- 1 日 時 2014 年 7 月 23 日(水)
- 2 場 所 群馬音楽センター（群馬県高崎市）

大会は、野本陽一副会長による開会宣言に始まり、引き続き、野本副会長の代読による林幹雄利根川治水同盟会長の会長挨拶及び倉嶋敬明群馬県県土整備部技監による開催県代表挨拶がありました。

続いて池内幸司国土交通省水管理・国土保全局長より、さらに狩野浩志群馬県議会副議長より祝辞をいただいた後、来賓の方々が紹介されました。

以下、大会次第は次のとおりであります。  
休憩をはさんで、

講 演	「カスリン台風による利根川上流域での被害について」 群馬大学大学院教授 清水 義彦	
事業概要説明	関東地方整備局河川部長	泊 宏
意見発表	高崎市長	富岡 賢治
大会宣言	板倉町長	栗原 実
大会決議	みなかみ町長	岸 良昌
次期開催都市挨拶	千葉県野田市市長	根本 崇

最後に松本泰夫大会実行委員長（高崎市副市長）が閉会宣言をして散会しました。

